第298回　市響

「ファミリー交響楽コンサート」

平成14年12月15日（日）14：00開演

場所：市川市文化会館 大ホール

指揮：松岡　究

ピアノ：鈴木　珠美

管弦楽：市川交響楽団

市川市

市川交響楽団協会　千葉交響楽団協会

本日のプログラム

フランツ・リスト

交響詩「レ・プレリュード」

エドゥアルト・グリーク

ピアノ協奏曲　イ短調　作品16

【第１楽章】 アレグロ・モルト・モデラート　ニ短調　4/4拍子
【第２楽章】 アダージョ　変ニ長調　3/8拍子
【第３楽章】 アレログロ・モデラート・エ・マルカート　イ短調　2/4拍子

～～～（休憩）～～～

ヨハネス・ブラームス

交響曲第４番　ホ短調　作品98

【第１楽章】　アレグロ・ノン・トロッポ　ホ短調　3/2拍子
【第２楽章】　アンダンテ・モデラート　ホ長調　8/6拍子
【第３楽章】　アレグロ・ジョコーソ　ハ長調　4/2拍子
【第４楽章】　アレグロ・エネルジコ・エ・パッショナート　ホ短調　4/3拍子

ピアニスト

鈴 木 珠 美（すずき　あけみ）

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを故クロイツァー豊子、篠井寧子、村松庸子の各氏に、指揮を高階正光氏に師事。
国立音大同調会千葉県支部コンサートにて新人演奏。家永音楽事務所ピアノ・オーディション合格。サントリー小ホール、津田ホールでのジョイントリサイタルにて、スクリャービン、ラフマニノフ、リストの作品を披露し好評を博す。市川市文化会館新人演奏会出身者として、市川交響楽団とモーツアルト「ピアノ協奏曲第21番」を共演。(1997.3)
村上正治団長の指導する市川混声合唱団、行徳混声合唱団のピアノ伴奏者を務め、R.フリーダー氏(ウィーンフィル首席チェリスト)をはじめ、器楽、声楽の伴奏者としても活躍している。彼女の常に前向きな音楽性と安定した演奏技量は多くの音楽家の信頼を集めている。

指揮者　プロフィール

松　岡　　究（まつおか　はかる）

成城大学文芸学部卒業。
音楽学を戸口幸策氏に学び、指揮を小林研一郎、声楽を山田茂の各氏に師事。1987年東京オペラ・プロデュース公演ドニゼッティ作曲「ビバ！ラ・マンマ」を指揮してデビュー。 その後、文化庁平成元年度優秀舞台芸術奨励公演プッチーニ作曲「蝶々夫人」、ロッシーニ作曲「オテロ」などを指揮。ほかに「ヘンゼルとグレーテル」「婚約手形」「カルメン」「椿姫」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「ハムレット」（原語初演）等を指揮。いずれも高い評価を得ている。
平成3年度文化庁在外派遣研修員に選ばれ、ハンガリー国立交響楽団及び国立歌劇場に留学。1992年夏スウェーデン・アルコンスト音楽祭に参加、「卓越した才能」と高く評価された。さらにヨルマ・パヌラ教授に師事、同教授からディプロマを与えられた。帰国後、93～96年、新神戸オリエンタル劇場管弦楽団常任指揮者。またグノー「ロミオとジュリエット」、ワーグナー「恋愛禁制」、ベルリオーズ「ベアトリスとベネディクト」、トマ「ハムレット」、R.シュトラウス「無口な女」と初演に取り組み、「きわめてバランス感覚に富んだ逸材」（読売新聞）、「R.シュトラウス特有の精妙な響きを引き出した」（日経）、「熟達の指揮ぶり、自らが意図する表現に歌手を自然に導いていく」（日経）、「オケから耽美的な響きを出し、抜群」（音楽之友）など各方面から絶賛された。昨年も1月ヴェルディ「王国の一日」（日本初演）、4月のブリテン「ねじの回転」（新国立劇場）、12月のヴェルディ「２人のフォスカリ」（日本初演）、本年は、R．シュトラウス「無口な女」の再演、ロッシーニ「ランスへの旅」（日本ロッシーニ協会）で各誌より絶賛された。
東京オペラ・プロデュース指揮者。

TOPIC

●祝　村上団長　米寿

市川交響楽団の生みの親で、団長を務める村上正治氏は今年米寿を迎えました。12月８日（日）市川グランドホテルで市川交響楽団協会主催にてお祝いの会を行いました。

●横田副団長　表彰

千葉交響楽団協会の理事であり、当団の副団長である横田行雄氏が、このたび、千葉県教育委員会の教育功労者表彰をされました。芸術・文化（個人）の部で地域文化活動に尽力されたその功績が大であると高い評価を受けました。千葉交響楽団協会理事。
日本アマチュアオーケストラ連盟副理事長。

曲目解説

フランツ・リスト（1811〜1886）

交響詩「レ・プレリュード」

ドイツロマン派後期の大作曲家、フランツ・リスト（1811-1886）の音楽活動は、1860年頃を境にして、２つの時期に分けることができる。このうち、前期において彼の音楽の中心となるジャンルである、ピアノ・管弦楽の作曲がなされている。

自らピアノの比類なきヴィルトゥオーソとしてヨーロッパに君臨していたリストは、「超絶技巧練習曲集」・「巡礼の年」・「ハンガリー狂詩曲」（この曲は全19曲中6曲がリストの手で管弦楽編曲されている）等のピアノ作品を作曲した。これらリストのピアノ作品と同様、器楽作品で重要なものに「交響詩」が挙げられる。交響詩はリストが確立した管弦楽曲の形式で、標題として掲げた文学や歴史などの事象を音楽で表現しようというものである。リストはその生涯の中で合計13曲の交響詩を作曲しており、交響詩「前奏曲（レ・プレリュード）」はこのうち第３作目に当たる。

交響詩「前奏曲」は1854年リスト43歳の年に作曲され、同年彼の指揮によってワイマールにて初演された。「前奏曲」はフランスの詩人ラマルティーヌの「詩的瞑想録」に基づいており、次のような序文が楽譜に付記されている。「我々の生涯は死によって開かれる未来の国への前奏曲に他ならない。現世は愛によって明けるが苦闘の嵐の中に暮れる。自然の美しさは心に平安を与えるが、ひとたび戦いのラッパが鳴れば人は必ず戦場に帰るものだ」。曲全体は、２つの関連した主題による自由な変奏形式をとり、愛の美しさを表す第１部、襲いくる苦闘を描く第２部、自然の中の静かな憩いを表す第３部、平和な生活に耐えられなくなった人間が戦列に加わる第４部、の４セクションに大別される。

リストによって創始された交響詩というジャンルは、その後サン＝サーンス、ドヴォルザーク、シベリウス等に引き継がれたが、ドイツにおいての後継者はＲ．シュトラウスの出現を待たねばならなかった。

エドゥアルト・グリーク（1843〜1907）

ピアノ協奏曲　イ短調　作品16

「ペール・ギュント」組曲で有名なグリーグであるが、彼の多くのピアノ曲の中で、ピアノ協奏曲はこの曲１つである。この曲には優秀なピアノ協奏曲としてのすべての条件がそろっているだけでなく、青春の溌剌たる力にみなぎり郷土色が豊かで、清新な感じに満ちている。

1869年４月３日。デンマークの首府コペンハーゲンで、ピアノ独奏によって初演が行われた。このときは、世界第一流のピアニストで、晩年アメリカに移り独奏家として活躍するノルウェー生まれのネウパルトによって演奏された。この演奏についてネウパルトはグリーグにこう書いて知らせた。

「土曜日に君のすばらしい協奏曲がカジノホールの大ホールに鳴りひびいた。私の受けた喝采はおびただしいものだった。第１楽章のカデンツァさえもすまないうちに聴衆は嵐のような喝采をはじめたのだ。３人の危険な批評家たち、ガーデとルービンシテインとハルトマンとは、座席にいて力いっぱい拍手していた。私はルービンシテインからこれほどの天才の作品を聞いて驚嘆したと君へ伝えるように頼まれた。彼は君と交際したいといっていた」。

翌年、彼が指揮者を努めるクリスチャニアの管弦楽団で、やはりネウパルトを独奏者として演奏され、非常な好評であったが、その年に大作曲家リストに会い激賞された。

また1877年の「新音楽時報」はこの曲の色彩、ノルウェー的な郷土色、独創的な細部、長調と短調との魅力的な混合を賞揚し、この曲には、ガーデ、メンデルスゾーン、ウイルマースなどのおもかげがあり、それにいささかのウェーバーと多くのリストとがひびいていると評した。

ヨハネス・ブラームス（1833〜1897）

交響曲第４番　ホ短調　作品98

ブラームスは当時隆盛を極めたリストやワグナーの新音楽とは一線を画し、ロマン派音楽の中にありながら純音楽の伝統を重んじ、古典的な書法を基礎にすえました。彼の書いた４曲の交響曲も形式主義美学から逸脱することなく、古典的で絶対音楽的な立場をまもりました。管弦楽の編成も、原則としてベートーヴェンの場合と大差のない２管編成を基準としています。しかし、彼の新しいものにとらわれないそのような創作態度は、まさに世代の時流に対する無言の、そして厳しい抗議ともいえます。時流に振りまわされることなく厳しい自己批判の中から生み出された彼の作品は、思想的、内容的な面からもたいへん個性的でその端正な書法は独自の美しさを作品に反映させています。

交響曲第４番は１８８４年ブラームス５２歳の夏に完成しました。それまでの交響曲には見られない人生の数々の苦悩を経験した一人の人間の悲しみの感情が曲全体を彩り、その頃読んでいたギリシャの悲劇やダウマーの暗い物語などの影響を感じさせます。またこの交響曲の特徴として終楽章にバロック時代の変奏曲形式の舞曲シャコンヌを用いバッハへの傾倒を示している点があげられます。曲全体の取り扱い方も対位法的で古いゴシック的な感じが見受けられます。

出演者名簿

【コンサートマスター】
立田祥子

【第１ヴァイオリン】
石本恵理
上原剛介
笠松秀臣
亀井玲子
小室乃律恵
鈴木薫
永田匡
根守弘和
秦一宜
松岡寛親
松延裕子
溝田範子
横田富美子

【第２ヴァイオリン】
阿部優子
石井眞美
祷眞規子
上田佳津子
上原佐貴絵
大村雅子
河東理奈
鎌田真貴
木本幸子
小室二美恵
城山洋一
富田八江子
久田しげ子
深沢武夫
村上葉子
吉岡一郎

【ヴィオラ】
浅野さとみ
内田綾美
小名康仁
奈良林弘子
野中彩乃
原口博司
星乗昭
村上賢一
若林繁
渡部玲子

【チェロ】
岩田理人
大塚啓子
倉沢倫子
瀬川清
田頭扶
中村公一
根岸朋子
野中能久
日澤優
福原耕二
山口勝規
横田朝之

【コントラバス】
石橋俊一
上村啓介
菊池克彦
小西祐作
神代順子
松本麻子

【フルート】
木村純一
木村眞諭紀
佐藤洋行
篠原梨恵

【オーボエ】
織田悦子
深町和良
二村直子
本間広樹

【クラリネット】
一瀬直美
奥村尚代
時田雄
半藤嗣人
吉野智久

【ファゴット】
伊吹直子
大矢哲雄
菅原斉

【ホルン】
木下泰斗
粂恭子
嶋村恒夫
林田朋子
藤井茂司
山内正晴

【トランペット】
安藤宣明
酒井崇行

【トロンボーン】
上田浩平
宮坂郁
藪崎裕至

【チューバ】
渡辺智

【打楽器】
都筑裕
春田美穂子
若月宣宏
和田英恵

【ハープ】
小橋ちひろ

房総文化憲章

房総の緑と海と土をいしずえとし　先人のたゆまぬ努力によって
はぐくまれてきた文化を　一層発展させ　誇りのもてるふるさと
房総を築いていくことは　私たち県民　すべての願いです
社会の移り変わりのなかで　ともすれば失われがちな　人と自然との調和や
人と人のきずなを見つめ直し　うるおいや　喜びをもたらしてくれる
心豊かな県民文化を創造していくことが　今　求められています
私たちは　一人ひとりが文化の担い手であることを自覚し　さまざまな
文化との交流を進めつつ　世界に開かれた文化県をめざして
ここに房総文化憲章を定めます

1．一人ひとりが　文化を愛する心を　はぐくみ
県民文化の創造に　参加しよう
2．地域の特色を生かし　水や緑との調和や
心のきずなを大切にして
村や町づくりを　おこなおう
3．私たちの　財産である伝統文化や
文化財を守り　受けついでいこう
4．空と海とを通じ　世界に開かれた房総の
特性を生かし　国際文化交流を進めよう
5．文化の　視点に立って　行政を進め
心豊かな　県民文化の創造を　支援しよう

昭和60年11月3日制定

市川市　市民憲章

わたくしたちは　江戸川の流れと松の緑に象徴される郷土市川と　その自然を愛し
由緒ある史跡と伝統をまもり育て　文化都市にふさわしく　教育と文化を重んじ
人間性豊かな調和のとれた明るいまちをつくるために　つぎのことを定めます

1．きれいで　安全な　より住みよいまちを　つくります
1．親切で　あたたかい　希望にみちたまちを　つくります
1．教育と文化をそだて　かおり高いまちを　つくります
1．健康で　楽しく働く　たくましいまちを　つくります
1．みんなの幸せを願い　豊かな福祉のまちを　つくります

昭和52年11月3日制定

市響の演奏会のお知らせ

2003年7月20日（日）14：00開演

第301回　市響「交響楽の午後」

マーラー／交響曲第５番

嬰ハ短調　（1901/02）他

指揮：早川 正昭　管弦楽：市川交響楽団